

## 目 次

景観シンポジウムの概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
出演者プロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・	2
主催者あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
桑名市の風景と桑名市景観計画の紹介・・・・・・・・	5
基調講演	
演題「身近な景観価値の発見とまちづくり」・・・	21
景観整備機構の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・	52
活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・	62
参加者アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・	98

### 景観シンポジウム開催趣旨

私たちが住む三重県は、伊勢平野から眺望する鈴鹿山脈や養老山地などの美しい山並み、伊勢湾から熊野灘にかけての変化に富んだ海岸線、川がつくり出す美しい渓谷や河口の水郷景観、東海道・伊勢街道に残された情緒あるまちなみなど数多くの景観資源に恵まれています。普段、あたりまえのように見ている景観も、社会経済の変化などによって美しさが失われてしまうこともあります。

皆さん、身近にある美しい景観を再発見して、次の世代へ継承していくために、みんなでできることを考えてみませんか。

## 景観シンポジウムの概要

日時	平成23年9月23日(金・祝)13:00~16:30
場所	桑名市民会館
主催	三重県・桑名市
後援	社団法人三重県建築士会

### 《プログラム》

#### 1 開会挨拶

桑名市長	水谷 元
三重県県土整備部理事	廣田 実

#### 2 桑名市の景観と桑名市景観計画の紹介

桑名市都市整備部都市整備課	
まちづくり景観室長	久保 康司

#### 3 基調講演 演題「身近な景観価値の発見とまちづくり」

早稲田大学創造理工学部長・教授 後藤 春彦

#### 4 景観整備機構の紹介

社団法人三重県建築士会理事・まちづくり委員長	宮崎 重則
社団法人三重県建築士会 桑員支部	駒田 幸男

#### 5 活動報告

コーディネーター	三重大学大学院工学研究科准教授	浅野 聡
コメンテーター	早稲田大学創造理工学部長・教授	後藤 春彦

報告者(50音順)

伊藤 肇	三本杉の自然を守る会(桑名市)
中西 万喜夫	一身田観光振興懇話会(津市)
坂 忠男	特定非営利活動法人 市民協働支援機構(岐阜県大垣市)

## 景観シンポジウムに参加された方々

一般	88名	
建築士	13名	
市町職員	66名(桑名市41名 桑名市以外25名)	
国県職員	19名	
出演者	9名	
要約筆記者	5名	
桑名市スタッフ	5名	
県スタッフ	13名	総参加者 計218名

## 出演者のプロフィール（敬称略）

### 基調講演／活動報告コメンテーター

#### 後藤 春彦（ごとう はるひこ）早稲田大学創造理工学部部長・教授、工学博士

1957年生まれ。早稲田大学大学院博士課程修了。三重大学工学部助教授、早稲田大学理工学部助教授等を経て1998年から同教授、2010年より現職。世界居住学会副会長、日本都市計画学会副会長、日本生活学会会長などを務める。「生活景」と呼ばれる暮らしの風景から、それを下支えする社会のしくみまでを含む地域計画・都市設計を実践的に研究している。2005年日本建築学会賞(論文)、2010年グッドデザイン賞、2010年土地活用モデル大賞、2011年都市計画学会賞(計画設計賞)を受賞。

### 活動報告コーディネーター

#### 浅野 聡（あさの さとし）三重大学大学院工学研究科准教授、工学博士

1964年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科博士課程修了。早稲田大学助手、三重大学助教授等を経て2006年から現職。専門は都市計画、都市設計、歴史的環境保全計画など。三重県景観審議会副会長、三重県屋外広告物審議会会長、松阪市・桑名市・亀山市景観審議会会長、伊賀市景観審議会副会長、伊勢市都市計画審議会委員などを務める。桑名市をはじめとし、伊賀市、松阪市、伊勢市、亀山市、津市などにおける景観計画の策定に携わっているほか、数多くの地域で市民と行政の協働型まちづくりの実践に関わっている。

### 景観整備機構の紹介

#### 社団法人三重県建築士会

当会は、建築士の品位の保持と技術の向上及び建築士業務の進歩改善を行い、建築文化の進展を図り、もって公共の福祉に寄与することを目的とし、主な事業として、建築士試験の実施、建築士の定期講習及び建築技術に関する講習会等を実施している。また、「まち・もの・くらしづくり」に関する地域貢献活動を推進するため、平成20年度に「みえ地域貢献活動センター」を設立し、地域活動への助成・支援を行い、地域社会の発展に努めている。平成21年度には、三重県、伊勢市、四日市市、松阪市から景観整備機構の指定を受け、歴史的地区における景観法の活用調査への協力や景観デザイン賞を選定するなど、幅広い景観に関わる事業を実施している。

### 景観まちづくり活動報告

#### 伊藤 肇（いとう はじめ）三本杉の自然を守る会 会長（桑名市）

多度山頂には根元から3つに幹が分かれる杉が多く見られることから、地元では多度山を三本杉と呼んでいる。麓に広がる柚井地区の住民が中心となり、三本杉へのハイキングコース周辺の自然を見つめ直し、未来を支えてくれる子どもたちのために、地権者ととともに植樹などの保全活動や自然とのふれあい活動に取り組んでいる。

#### 中西 万喜夫（なかにし まきお）一身田観光振興懇話会 会長（津市）

一身田商工振興会のメンバーを中心とし、真宗高田派本山専修寺に協力し、寺内町にかつてのにぎわいを取り戻そうと活動している。案内ボランティアである一身田寺内町ほっとガイド会の育成や、県が取り組む「まちかど博物館」への参加、昔のまちなみを案内板で紹介する取組、環濠の地区住民による清掃活動など、訪れる人への「おもてなしの心」を持ってまちづくりに取り組んでいる。

#### 坂 忠男（ばん ただお）特定非営利活動法人 市民協働支援機構 代表理事（岐阜県大垣市）

中山道と東海道を結ぶ美濃路街道沿いにあり、水運により繁栄した大垣市船町をはじめ、市内に残る歴史的な景観を活かしたまちづくりに取り組んでいる。平成12年から平成15年にかけては、大垣まちづくり応援団代表として地域の住民と協働し、昔の船町にあった橋の存在を示す道標の再建や、美濃路を再発見する市民投票などを行った。

## 主催者あいさつ

### 《桑名市長 水谷 元》

皆様こんにちは、桑名市長の水谷でございます。

日頃より、皆様方には、市政各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜りますことに、心より感謝を申し上げます。また、本日は、市民の皆様方と一緒に魅力ある景観づくりを考えるきっかけとする、「景観シンポジウム」を開催しましたところ、大変多くの方にお集まりいただきまして、厚くお礼を申し上げます。桑名について簡単にご紹介申し上げ、ご挨拶に変えたいと思います。

さて、桑名市は、ご承知のとおり、三重県の北部に位置し、揖斐、長良、木曽の三大河川が集まったデルタ地帯と、北側に位置する多度山などからなり、様々な景観資源を多く有しております。

こうした条件を生かし、国営木曽三川公園など、親しみやすく良好な景観を持つ市民のレクリエーション施設や都市リゾート施設が整備されています。一方、当市の中心市街地や周辺の集落などでは、古くから水上交通の要衝であることから、東海道の宿場町、城下町、港町として栄え、さらには多度大社の門前町として発展するなど、多くの人々の交流の場でもありました。このため、当市には、天下の奇祭で有名な「石取祭」や「上げ馬神事」、また、明治・大正期の歴史的建造物の「六華苑」など、全国に誇れる有形・無形の貴重な文化遺産などが多数存在しています。しかしながら、名古屋圏の活発な都市づくりにともない、周辺では、広域幹線道路として伊勢湾岸道路の整備や東海環状自動車道の具体化が進みつつあるなか、今後は、これらのアクセス道路沿いの開発、高度利用による景観の障害が心配されています。

また、中心市街地である桑名駅周辺地区では、全国で第1号の再開発ビルであった旧商業ビル跡地のまさに再再開発ビルの建設に続いて、周辺地区の土地区画整理事業なども含めた新しい玄関口の整備の検討など、官民が協働するなかで、新たな都市づくりが進んでいます。このような背景をふまえ、当市特有の自然景観、歴史的景観、また都市景観を保全、再生、形成するための枠組整備が必要となってまいりました。そこで本市では、昨年、7月に景観法の規定に基づく景観行政団体となり、今年、4月には桑名市景観計画を定め、10月より計画の運用を始める予定でございます。以上桑名市の全体像についてご紹介しました。

本日は、このあとに、生活に根ざした景観の再発見について、早稲田大学の後藤春彦先生から基調講演をいただき、また、市内外においてまちづくりを実践していただいております団体の皆様からは活動報告をいただく予定でございます。是非有意義なお時間をお過ごし頂ければと思います。

結びになりますが、祝日というお休みの日にお集まりいただきましたことに、心から感謝を申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

## 《三重県県土整備部理事 廣田 実》

本日は、三連休の初日ということでいろいろな行事が行われる中、多数の皆さまのご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

景観シンポジウムの開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

私たちの住む三重県は、非常に素晴らしい自然景観、あるいは歴史・文化的景観が数多くございます。これらの景観は、先人たちにより現在まで受け継がれてきました。こうした素晴らしい景観を守り、育て、また、新たに良好な景観を創り、後世に引き継いでいく必要があり、そのためには、私たち県民の不断の努力が大変重要であると考えております。

近年、県内や全国各地で地域の皆さまが主体となって、あるいは、民官協働でさまざまな景観まちづくりに関する取り組みが行われてきています。

そうした中、三重県では、景観まちづくりは、地域の魅力を高め、新たな地域づくりにつながるものであると考え、三重県景観づくり条例を平成19年10月に公布するとともに、景観法に基づく三重県景観計画を定め、平成20年4月から運用をしているところでございます。

桑名市におかれましても、平成22年7月1日に景観行政を自主的に進める自治体である景観行政団体となるとともに、景観法に基づく桑名市景観計画が来たる10月1日から運用開始されるところであります。

一方、県内の市・町におきましては、桑名市をはじめ、伊賀市、四日市市、松阪市、伊勢市、鈴鹿市、亀山市の7市が景観行政団体となって、景観まちづくりの取組を進めており、県としましては、県内各市・町の景観まちづくりの更なる展開を期待しつつ、引き続き連携し、支援を行ってまいりたいと考えております。

さて、本日は、「身近な景観価値の発見とまちづくり」と題しまして、全国の多数の地域で景観づくりやそれを支えるまちづくり活動を支援するなど、ご活躍されております、早稲田大学創造理工学部長の後藤 春彦先生から基調講演をいただきます。

また、活動報告では、社団法人三重県建築士会、桑名市、津市、岐阜県大垣市から、景観まちづくりに取り組まれている方々をお迎えして発表していただきます。その後、三重大学の浅野先生の進行で、地域の自然や歴史・文化を活かしながら、身近にある景観をより良いものにしていくための課題や今後の取組などについて発表者の皆様に意見交換をしていただく予定でございます。

本日のシンポジウムを契機に、桑名市におかれましても、桑名らしい良好な景観を保全・創出されていくこと、また、皆様のお住まいの地域から、美しい景観づくりが、どんどん広がっていくことを期待いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。